

元気な “からだ” づくり



2010年12月福岡市議会

一般質問 2010.12.15

**民主・市民クラブ
玉井輝大**

目次

1. 背景・・・1

- 「元気な“からだ”づくり」三つの視点から、まず考えてみます。・・・1

2. これまでの取り組み・・・4

- 市民自ら行う栄養・健康管理支援事業・・・4
- 遊休地を“しごと”“からだ”づくりに活用する・・・4
- 特定スポーツの振興策とその根拠・・・5

3. 提案します・・・6

- 食品の高品質化と少量高価流通を地産地消で図る・・・6
- “からだ”を使う“しごと”としての土地活用と地域活動の活性化・・・7
- 日本独自スポーツを都市戦略として活用する・・・6

4. これからを展望・・・8

- 独自の元気な“からだ”づくり・・・8
- 地域を上げた農地活用の取り組み・・・9
- 相撲と剣道の国際スポーツ大会を・・・10

※この報告書は、玉井の質問原稿と当局回答概要から作成しております。正式な会議録は、議会事務職のホームページ< <http://asp.db-search.com/fukuoka-c/dsweb.cgi/> >でご確認ください。

1. 背景

(1 問目)

お元気サンです！ 民主・市民クラブを代表し質問します。今回は「元気な“からだ”づくり」について、それを、「食育推進」、「しごと」を通じた“からだ”づくり、「相撲と剣道振興」の3つの点から質問いたします。

<基本姿勢>

この質問の基本姿勢は、「まず自分で、次に、地域で、『元気な“からだ”づくり』ができるように、公的支援を考える」ことです。まず、「食育」の観点から、地産地消を進めるため、地域あげて協力できる仕組みをつくる。

次に、子供も大人も地域活動で“からだ”を使い、体力維持を図る。そして、「元気な“からだ”づくり」から一歩進めて、真似されることのない相撲・剣道の国際大会を開催する。この3つを提案します。

■「元気な“からだ”づくり」三つの視点から、まず考えてみます。

<栄養摂取側>

「元気な“からだ”づくり」を、まずは、「栄養をとる」側から考えます。

ものを食べることで、栄養を摂取し、“からだ”そのものをつくり、活動エネルギーを得ます。水や空気も大切ですが、食べ物が素（もと）になって、元気な“からだ”が、つくられます。それ以外の源（もと）はない。「医食同源」はこの事実に基づく真理です。

“からだ”づくりの源（みなもと）が、安全で安心なモノでなければならぬ。そのために、食べ物をつくる環境を清らかで、産地から食卓までの食べ物の流れを分かりやすくする。しかし、民で行われる流通は複雑です。従って、流通経路を短く単純にし、安全責任を明確化しやすい「地産地消」を実現する必要があります。

産地直売所の数も、販売額も、ここ5年間で増加しています。アメリカ発のサンドウィッチ店「サブウェイ」が自分のところで使う野菜を、店舗併設工場で作りはじめています。産地と食卓を直結する新鮮が“売り”になっています。直売所のアイテムごとの販売状況を、携帯電話で農業生産者に流し、売れているモノの供給をリアルタイムで行う。こんなネットを使う旬のモノの販売も始まっています。また、自分でネットを使い、食事の写真を送って、カロリー、栄養バランスをチェックしてもらい、栄養管理のサービスも始まっています。そこに、医療専門家がつながる。この3つ、食べ物と栄養と医療をインターネットでつなぐサービスは、単なる健康サポートにとどまらず、旬のものを食卓に送り、旬の食べ物の新鮮な元気を“からだ”にいただく、



福岡ならではの“元気”システムになると思います。

< 栄養消費側 >

次に、「栄養をつかう」側から“元気”を考えます。

食べ物の形で摂取された栄養は活動のためのエネルギーとして消費されます。栄養消費力が強いということが、“元気”であるということ。エネルギー消費力を高めるため、子ども達は体育に励み、“からだ”が出来上がった大人はスポーツに励みます。子どもの体育は、人間としての活動能力を高めるための“からだ”づくり、活動エネルギーのたくて強い流れを“からだ”に備えるための鍛錬です。大人のスポーツは健康管理のための、とりすぎたエネルギーの消費活動です。

さらに、栄養消費には労働があります。仕事で“からだ”を使うことが少なくなった現代、健康管理のためのスポーツが、高度成長の中で人気になりました。しかし、停滞する経済状況が続く、いま、改めて“しごと”を“元気”づくりの重要な機会としてとらえなおす。第1次産業にはまだ、体を使う部分が残っています。「鉄腕・稲尾の体力は漁船をこぐ、漁師仕事で付いた。スポーツでの筋肉の使い方と労働での筋肉の使い方は違う。労働は筋肉を上手に使うことを身につける。」と聞いたことがあります。農林水産業の振興とからめて、“からだ”づくりをおこなう。

手つかずになっている山、田畑、遊休地の活用子どもや地域の人に参加する。農林漁業や狩猟などでの食べ物生産を“元気”な“からだ”づくりに使う。「食育基本法」の「目的」でうたわれる「健全な心身を培って、豊かな人間性を育む食育」の理念に、これほどふさわしい活動はないと思います。

自分でつくった新鮮で旬のものを食べるプログラムは、子ども達に農林作業を“からだ”を使って体験させ、生物や科学の学習にもなります。田植え、稲刈りなどを取り入れた入部小学校の「稲作」、次郎丸中学校の「餅つき」などの試みは興味深い。これらをもっと日常として充実させる。

食べ物を産み出す山林、農地、川や海の放置は安全な食べ物の生産を脅かしています。みどり豊かな山は清らかな水と空気をつくり出します。旬のものを食卓に届けるためには、食べられる森づくりも、忘れてはなりません。実なる木を植える。食べられるものを山で育て、熟れたての実りを採取し、食卓へ届ける。放置されている土地を住民が“からだ”を使う目的で管理作業にはいる。市場で売れる価格だけでは山林や、畑や、田んぼを経済的に維持することはできない。しかし、その周辺地域の人たちは森や田園のもたらす環境の良さを享受しています。地域の人とその維持に“しごと”として参加することは経済的にも理に



かなったことなのです。

住民が参加する地域活動は、ほとんどが“からだ”を使ってなされることばかりです。近所にある遊休地に花壇をつくる、防犯見回りをする、河川清掃をする、など、地域活動を通じて中高年者の健康を、子ども達の体力づくりをおこなう。地域の仕事で“からだ”を使うのは、元気な“からだ”づくりと地域管理につながる。一石二鳥です。

< 都市戦略としてのスポーツ振興 >

次に、「都市戦略としてのスポーツ振興」について考えます。

戦略的見地から、スポーツ振興を考えたとき、相撲と剣道が浮かんできます。子ども達の間では、野球、サッカー、バスケットなどのクラブが盛んです。しかし、これらは外国産のスポーツであり、どんなに盛んになっても、世界に向けての情報発信にはつながりにくい。

高齢化の進展はほとんどの先進国の課題です。そして、日本はその中でも高齢化先進国です。だが忘れてはならないのは、「日本は長寿世界一」であること。世界は日本の長寿に注目しています。だから、お寿司などの日本食は世界的な人気を呼んでいます。同様に、長寿国日本のスポーツは、健康に気遣う先進国で関心を呼び起こします。日本ならではの元気な“からだ”づくりとして、日本の伝統競技振興を勧める。「簡素・節制」を体に覚えこませる日本の国技は、「節制」が不可欠なダイエットのこころえとして、先進国の“からだ”と“こころ”にうったえらると思います。日本が育ててきた伝統的スポーツを世界に広めることが都市戦略となります。

相撲は日本の農業生産の中で生まれた伝統競技であり地域文化でもあります。しかしいま、大相撲は国際化が進み、そして、日本人力士の不振な状態が続いています。大麻や野球賭博などなど、嘆かわしい事件も起きました。福岡市でも、相撲場がある小学校は一つだけになり、中学校での相撲部はなくなっています。10年ほど前、志賀島の勝馬で、子供と成人男子が、ほんの数組だけでしたが、晴天の下、まわしだけつけた相撲を見ました。美しい光景だと思いました。ここ数年、飯盛神社での子供相撲を見に行っています。これら、まだ続いている相撲の伝統的機会は、細々かもしれませんが、明るく続いています。



飯盛神社での子供相撲

剣道は私たちの経済基盤であった農村地域を自分たちで守るという役目を持ったサムライ、すなわち自らの地域を自らの手で守るという日本の地域自治から生まれてきた、武道だと思っています。ここ数年の、学校での剣道参加者数は変わらず、根強い人気を示しています。3年ごとに、世界剣道選手権大会が開かれているそうですが、まだ、世

界的な認知度は低い。しかし、「サムライ」は、日本人を表す言葉として国際的に認知されており、世界の現代芸術にも大きな影響を与えた禅、など、日本文化育成者としての評価が高い。このサムライがつくった「剣道」も、国際的に関心と呼ぶ日本ならではの競技になると思います。

ここで質問いたします。

(2問目)

2. これまでの取り組み

■市民自ら行う栄養・健康管理支援事業

- 食事バランスガイドを使った指導の実態については、講習会や保健福祉センターでの栄養指導で活用している。
- 取り組みの結果、一定の効果が見られるが今後も分かりやすいツールを活用して、市民の健康支援に努めいく。
- 食育を推進する団体としては各区に食生活改善推進員協会がある。
- 協会への支援については、保健福祉センターでの会員を養成、各種教室の運営や研修会の実施の支援、活動を市政だより等でPRを行っている。
- 市民がインターネットを使って自らの手で食事管理ができる福岡市健康づくり財団のホームページに食事バランスがわかるサイトがある。
- 本年度健康づくり・スポーツに関する情報発信用ポータルサイトの解説を予定しており、このサイトにより民間の情報に提供していく。

「食育推進」について、栄養管理、すなわち食事バランスガイドを使った実際的指導の実態、効果、課題は？ さらにカロリー摂取と、栄養バランスについての市民への指導はどうなっているのか、教えてください。また、いま食育関連の団体にはどのようなものがあるのか？ その支援策はどうなっているのか？ 福岡市も市民の栄養管理、ダイエット支援などのために、健康産業や、医療関係者や、地域活動や環境維持活動団体などの健康関連サイトをリンクするなどして結んで、市民自らの手で行う栄養・健康管理支援事業をしてはと思います。考えを教えてください。

■遊休地を“しごと”“からだ”づくりに活用する

「しごと」を通した“からだ”づくり」についてです。

学校における総合学習を使って、子ども達に農業体験は行われています。地産物を知る、農を知る貴重なプログラムです。しかし、それが、元気な“からだ”づくりプログラム、とまでには至っていません。準備の段階から地域や、JA、商工会などの力を借り、“しごと”を知り、“しごと”を通して、“からだ”づくりを継続して行う、地域をあげた仕組みにする。現在行われている次郎丸中、入部小のプログラムの課題をどのようにとらえているのか、また、さらに充実させるとしたら、どのようなことが考えられるか、教えてください。遊休地を農家に相談して、学校農園として使用する。そして、授業で使うとき以外は地域で“しごと”から遠ざかっている人、退職した人、“からだ”を動かしたい人など



の健康増進もかねて農作業をやっていく。継続する授業として、学校生徒みんなで農地をつくり、種をまき、収穫から、販売までをおこなう。農作業を通じた食べ物づくり体験、野良“しごと”での体育、として、“からだ”と“こころ”をつくる。遊休地を学校農園として、地域の人たちによって維持・管理し、子ども達の学習に生かすことを検討してほしいと思います。考えを教えてください。

- 両校とも、地域の方や保護者などの協力のもと、田植えや稲刈りなどの稲作体験を実施。収穫後も、次郎丸中学校では、お餅つきをし、地域の高齢者に配布。入部小学校ではご飯を炊き、お世話になった方々へ感謝の集いを実施。
- 課題は、体験しただけで終わってしまうことなど。
- 一層の充実を図るには、体験を食育につなぐなど、発展的、関連的な学習が重要。

- 本市の小中学校では、「新しいふくおかの教育計画」に基づき、様々な体験活動を通して心身の調和のとれた発達と個性の伸長を測る取り組みを推進。
- 現在、多くの学校で、学校内外の田畑等を活用し、米づくりや野菜、花づくりなどを推進。
- 地域の田畑を生かして、稲作などに取り組むことは、児童生徒にとって貴重な体験であり、今後とも、遊休地の活用も含めて、地域の特色を生かした学習の充実を推進。

■特定スポーツの振興策とその根拠



「相撲と剣道振興」についてです。

日本の農業生産と、それを守るために発達した相撲と剣道は日本独自のスポーツです。

すでに述べたとおりの混迷するプロ相撲、子ども達に忘れ去ろうとされているアマチュア相撲を、福岡市から復活できないでしょうか。相撲に関してどのような施策を考えているのか、教えてください。

剣道に関しては、福岡市開催の玉竜旗は人気を維持し、学校でのクラブ、大会などの数や参加人数も安定しています。剣道に関してさらなる振興策を何か考えているのか？

一般的に特定スポーツを振興するときの根拠は何か？教えてください。

- 相撲と剣道については、本市主催の「市民総合スポーツ大会」において、それぞれ実施しており、また競技団体主催の大会を後援している。
特に、全国の高校生を目指す「玉竜旗高校剣道大会」に対しては、後援や財政的な支援を行っている。
- 相撲や剣道の振興は、心身の鍛練を通して青少年の健全育成に寄与することから、その関心を高めることは重要であると認識している。
- スポーツの振興については、市民の健康増進や余暇活動の充実を図るうえで、重要な役割を担っていることから、今後とも、競技団体の意向を踏まえて、その振興策を検討していく。

3. 提案します

■食品の高品質化と少量高価流通を地産地消で図る



まず、「食育推進」について、地産地消が本格的に実現するための具体策を提案します。福岡の流通市場で、低コストの実現のために、余計な添加物などを使って生産された食べ物の存在を少なくしていく。そのために、福岡市だけの厳しい品質基準を設け、福岡市場へ入る食べ物に対する敷居を高くし、価格が安いだけの商品の流入を少なくする。さらにこの基準は福岡市農家の品質を高める努力を促し、競争力を高め、結果として、地産品が福岡市民の食卓に上り、安心して旬の元気をいただく食生活を実現する。福岡市ならではの品質レベルの厳しい基準を設け、福岡流通市場での食品の高品質化を図り、福岡の地産品の販売力を高めることに関して、考えを教えてください。

ここ数年、産直での販売額増加など、地産地消への市民の志向がデータで裏付けられています。地産地消のお店や直売所支援プログラムは特別にあるのでしょうか、教えてください。また、「食育推進計画」の中に、流通が抜けていることも気になります。地産地消を実現するためには、地産品の価値を見だし、ターゲットとする消費者を絞り、そこへ販売の戦略を組み立てるマーケティングの専門家の力が必要です。その力によって、福岡の地産品を、少量でも高い値段で流通させる。温暖化を軽減し、私たちの文化を育ててきた農家を巨大市場の中で競争させるのではなく、特定のニッチ市場での高価流通で育てていく。そのために、少量高価流通を地産地消で図っていくことを、推進していく。考えを教えてください。

- 農産物の品質向上は、販売力を高める上で、また、消費者の市内産農産物の安全性に対する信頼を確保する上で重要である。
- 品質の確保については、農産物の安全安心推進事業により、生産者への農業使用基準の遵守を図るとともに、出荷前残留農薬の検査等を行ない、消費者に信頼される農産物づくりに努めている。
- 生産物の品質確保・向上については、作物毎の部会活動、産地づくりや生産環境整備の支援のほか、県農業普及指導センター、農協等と連携した本市農業指導センターを通じて生産技術の向上等の支援を行っており、今後も推進していく。
- 生産者及び生産者団体が行なう農作業の工程管理であるGAPの普及啓発についても推進していく。
- 直売については、農協設置の直売所や、漁協が開催する朝市夕市の開催等によって、地産地消に取り組みまれており、直売所に出荷する農家への研修等のほか、広報媒体による直売所等のPRを行っている。
- このほか、農林水産まつりや生産者が行なう直売イベントなどへの支援を通じて地産地消の促進を支援している。
- 農産物が消費者の許に届くまでのルートは、市場流通を通じたもの、直売によるもの、ネット販売など様々である。
- 農産物の流通については、農商工連携による市内産農産物の新たな販路拡大や消費拡大を推進する中で、マーケティング等その手法について研究していきたい。

■ “からだ” を使う “しごと” としての土地活用と地域活動の活性化

つぎに、「しごと」を通した“からだ”づくりについて。

私は、毎週掃除をしている油山川の水源を目指して川をずっと登っていったことがあります。そのとき、風倒木で覆われた“みずべ”、竹林の浸食、ゴミの放置など、荒れている森林の実態を知りました。このような山の実態を地域“しごと”で解消できないでしょうか。沢登りだと、軽装備で、水べ周辺だけだと、あまり危険ではない。そこから、少しずつ人間が管理しやすい状態拡げていったらいいと思います。この努力を、学校と地域“しごと”で、できないか。このような地域活動への参加は、若いひとには体育、年輩者には健康の維持になると思います。



田んぼを利用したチューリップ畑
(早良区大字西)

地域で行われている適度な運動を伴う地域活動は住民の健康づくりにも寄与するものであり、低未利用地を活用した地域活動にも同様の効果が期待できる。

市民局は、低未利用地を活用した市民参加型の事業を企画・実施する所管局と、低未利用地を地域活動に活用したいといった地域ニーズをつなぐ役割があり、区役所を通して情報を地域に提供するとともに区役所と連携して地域との調整を行っていく

放置してある農地や、それ以外の土地を、花壇づくり、ビオトープづくりなど、美しく、環境に配慮して管理していく。この活動を、すでに行われている清掃活動や防犯見守り活動などに加え、ゆっくり“からだ”を使う活動として、年輩の人の参加をさらに増やし、強化していく。若い人たちにも、これらの活動の訓練として、“元気”維持として参加を勧めていく。子ども達も、体育、社会勉強として参加させる。そして、地域や学校が協力して遊んでいる土地の適切な活用を図っていく。このような“からだ”を使う“しごと”として、農地、森林もふくめた未利用地活用への市民参加を図り、地域活動の活性化につなげる。そのためには、市民参加へ向けた、地域への働きかけが重要だと思いますが、考えを教えてください。

■日本独自スポーツを都市戦略として活用する

「相撲と剣道」は、いま、世界ではマイナースポーツかもしれませんが。相撲・剣道競技の中心地として、世界から人を集めることによって、日本文化理解を勧める。相撲・剣道が世界に広がれば、国際的な元気づくりと文化振興に貢献する都市と認められる。1983年から2006年まで開催された「福岡国際女子柔道選手権大会」は、世界の女子柔道家の注目を集め、女子柔道をオリンピック競技にまで高めました。

名横綱・双葉山は大分県出身で、いまの大大関・海皇は福岡県出身です。相撲の歴史の中で九州は日本のどこにも負けていません。また、福岡市は剣道でも1916年から

開催され、高校剣道の三大大会として全国から、予選無し
の勝ち抜き戦で争われる、玉竜旗の開催地であり、高校生
剣士にとっての聖地なのです。日本のスポーツを、それを
育んだ文化を世界に知らせる都市戦略として、相撲と剣道
のアマチュア国際大会を開催してはどうでしょうか？ 武
道の国際大会の開催状況はとあわせて、どのようにお考え
か、教えてください。

本市において、武道の国際大会は、全日本柔道連盟
などの主催による「福岡国際女子柔道選手権大会」
を2006年まで開催しており、相撲と剣道の国際
大会は、これまで開催しておらず検討を行っていな
いが、今後、競技団体などの意見も聞いて、その開
催の可能性を検討する。

4. これからを展望

(3 問目)

■独自の元気な “からだ” づくり

まず、「食育推進」についてです。

「食育推進計画」の目標値として、「朝食摂取100%」
があげられています。理想値としての100%は理解でき
ますが、平成27年度の目標値としての100%は、計画
としては意味のない数字です。施策を自らの手で実現させ
るという達成意志が感じられません。例えば、「犯罪発生
率0%」という目標値をたてて、実施しろといわれて、ま
ともに、やろうとする人がいるのでしょうか？ これまでも、
私は、税金を使って人をはり付け、予算を使う公的事業は
実態に即して、意志を持って、目標達成を徹底すべきだと
主張してきました。すでに、先月開かれた「食育推進会議」
でも、到達することがあり得ない「朝食摂取100%」の
目標値の見直を主張しました。改めて、何が何でも平成
27年度に成し遂げるといふ目標値を再設定していただき
たいと思います。考えを教えてください。

「食育基本法」で「健全な心身を培って、豊かな人間性
を育む食育」と書いてありますが、「食育推進計画」では
「食」から「心」まで入っていますが、体育、スポーツが
ぬけており、健全な“身（からだ）”づくりについては、書
かれていません。これでは「健全な心身を培う」というと
ころへ至ることはできない。「食育推進計画」には“からだ”
づくりは含めなくていいとの見解もあると聞きました。少
子高齢化がすすむ日本で、「元気な “からだ” づくり」は福
岡市で独自に工夫してでも頑張るべき重要テーマだと思い
ます。新市長に力を入れて取り組んでいただきたい。市長
のお考えをお伺いします。



- 学識経験者や関係団体等が委員となっている食育推進会議において、目標値を100%と設定することの是非について検討、目標値100%を目指して取り組むべきであるとのご意見をいただいている。
- 今後も様々な意見に耳を傾けながら、成果目標値の設定について検討し、食育推進会議で第2次計画を策定していく。
- 平成22年度からの3年間を「ヘルシー・シティ・アプローチ」として健康づくりに関する一大キャンペーンを街全体で実施する。
- 民間企業や大学等と連携した新たな取り組みを推進するなど、今後とも、市民の健康づくりに尽力していく。

■地域を上げた農地活用の取り組み

次ぎに、「しごと」を通した“からだ”づくりについてです。

生産のための投入要素である土地と労働に、産業構造の変化により、遊びが出てきています。増加する、行き場のない働き手と、稲作の生産調整でこれから更に出てきそうな遊休農地をうまく合わせ、新たな仕事をつくりだしていくことができないでしょうか？ 農業に関心があり仕事を探している人の新規就業への入り口として、農商工連携の“しごと”インキュベーターとして、放置されている土地や農地を、行き場のない働き手に開放できないでしょうか？

まずは、遊休農地も含め、管理が行き届いていない荒れた土地を活用し、年輩の人はもとより、若い人も含めて、野菜や花づくりなどの農業体験への参加をすすめていく。農地を守るこのような活動を、“からだ”を使う“しごと”として支援すれば、中高年者の健康維持にもつながり、若い人の“からだ”づくりにもつながります。さらに、農業体験から一歩進めて、農地を借り受け、より本格的に農業をやることまでへの支援も進めていく。

まず、小学校で農地を借り受け、総合学習などに活用することは可能なのか、教えてください。これと同じようなやり方で、地域が学校と一体となって、農林業への新規就業の入り口をつくっていく。地域あげでの取り組みにより、農林業への入り口の敷居をさらに低くして、間口もさらに広くする。このような地域を上げた農地活用の取り組みを通して、新規就業したいという方々が出てきたときにどのような支援をしていくのか、教えてください。

- 小学校において、教育目的で使用する場合は、可能。
- 新たに農業に取り組もうとされる市民への支援については、就農相談の受付や、農業研修、遊休農地を中心とした農地の確保に関する支援に努めていく。特に、就農に際し大きな課題となっている農地の確保については、従来は原則50a未満での農地の権利取得を認めていなかったが、10a程度でも、農地の利用権設定が可能となる仕組みを来年度から開始することとしている。



■相撲と剣道の国際スポーツ大会を

福岡の国際的なスポーツ大会開催は、ユニバーシアード、世界水泳で止まっています。発展するアジアの都市ではアジア大会を誘致する活動が盛んです。国際的コンベンションは全国2位の開催件数となった福岡市ですが、国際的なスポーツ大会の開催実態は、そして、その認知度はどのようになっているか、教えてください。また、これまで、これからの国際スポーツ大会に関しての取り組みはどのようになっているのか教えてください。



福岡国際センター
〈写真提供：福岡市〉

スポーツは生（なま）のドラマを世界に伝えることができる、感動を伝えることができる。福岡を世界で認知させるための都市戦略で有効に使えるものだと思います。しかし、オリンピックなど身の丈に合わぬ大競技大会ではなく、小規模でも国際的な認知を勝ちとることができる何かが、やれないか？ 相撲と剣道はその対象とならないか？ 次の国際大会に関して福岡の次の一手は、どのようなことを考えているのか、このような視点から、考えを伺いまして、私の質問を終わります。

「ユニバーシアード福岡大会」や「世界水泳選手権福岡大会」などの過去の開催において培われた貴重なノウハウとホスピタリティは、市民にとってかけがえのない財産になっており、本市から世界に向けた情報発信により、その知名度を高めたものと認識している。

また、毎年、「福岡国際女子テニス」、「アジア太平洋カップ福岡国際男子バレーボール」、「福岡国際マラソン」及び「福岡国際クロスカントリー」などを開催し、多くの市民に参加や観戦の場を提供している。

国際スポーツ大会の開催は、市民自らがスポーツに参加する機会の創出と高いレベルの競技観戦を通して、スポーツを身近なものとするだけでなく、活力と魅力あるまちづくりに大きな意義を持つことから、「福岡市スポーツ振興計画」に基づき、今後とも、競技団体と密接な連携を図りながら、その誘致に努める。